



代表取締役社長

秋川 正

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、当社第41期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の事業の状況につきまして、ご報告申し上げます。

Q 前期の連結業績についてお聞かせください。

この半年の間では、消費マインドの低下傾向が顕著となりました。その背景には日本全体の景況感の悪化がありますが、さらに鶏肉相場の低迷に伴ってスーパー等の店頭価格が下落していることも影響していると分析しています。その結果、主力の鶏肉と冷凍加工食品の売上は前年対比で横ばいにとどまりました。

一方で、人手不足を背景とするコストアップ要因はさらに拡大しています。その影響を吸収すべく、様々な生産性向上やコスト削減の取り組みを進めており、特に生産部門では大幅な改善ができましたが、トータルではまだ十分とはいえません。その結果、利益面は当初予想を下回る形となりました。



▲当社一番人気のチキンナゲット

Q 現在の経営環境をどのように認識していますか？



▲ゆめファームでの苗の定植作業風景

足元では消費者のマインドが低下していることは事実です。しかしながら、長期トレンドとしての食の安心・安全を重視する傾向は今後も続くでしょう。欧米においては近年のオーガニック市場の拡大は目覚ましいものがありますが、その根底にある価値観は日本でも広く浸透しつつあります。日本でも今後の市場拡大が期待されるわけですが、当社は食の安心・安全におけるパイオニアとして、さらにブランドを磨き、拡大するオーガニック市場の中で存在感を示していくことが重要だと考えています。

業績の推移

生産面の成績の改善や、直販事業の損益改善がありました。鶏肉・冷凍食品工場の製造コストの増加などにより、経常段階は減益となりました。

業績ハイライト (第2四半期連結累計期間)

	第38期 ('16.4~'16.9)	第39期 ('17.4~'17.9)	第40期 ('18.4~'18.9)	第41期 ('19.4~'19.9)
売上高 (百万円)	2,573	2,605	2,700	2,719
営業利益 (百万円)	69	11	△11	△23
経常利益 (百万円)	73	42	△2	△6
四半期純利益 (百万円)	50	21	△22	△10
1株当たり四半期純利益(円)	12.01	5.10	△5.40	△2.58
総資産 (百万円)	4,102	4,677	4,922	4,915
純資産 (百万円)	1,435	1,500	1,554	1,653

Q 上期の取り組みのトピックスをお聞かせください。

まずは、ブランド強化の取り組みですが、上期は会社マークと商品パッケージのリニューアルの準備を進めることができました。現在はホームページのリニューアルに取り掛かっています。ブランディングにおいてデザインはやはり重要です。「秋川牧園らしさ」が今まで以上にわかりやすく、かつしっかりと伝わるようになりますので、その効果に期待しているところです。

二つ目は、人手不足対策の進展です。当社では10月から新たに外国人の方を工場の人材として迎え入れることができました。また、鶏肉工場でカットした鶏肉をラインで流しながら凍結させる冷凍機械を、生産能力を大幅に高めたものに更新することを決定しました。このような機械化投資を今後も積極的に実行していきたいと考えています。



※同封している秋川牧園のたよりは、本来は消費者向けに作成したのですが、株主の皆様にも普段着の秋川牧園のことも知っていただければと考え、昨年からお届けしているものです。お楽しみいただければ幸いです。

会社の概況 (2019年9月30日現在)

本社所在地 山口県山口市仁保下郷10317番地
 設立 昭和54年5月25日
 資本金 7億1千4百15万円
 従業員 205名(グループ合計 276名)
臨時社員及びパート社員を除く
 上場証券取引所 東京証券取引所
 JASDAQ(スタンダード)
 事業所
 本社及び工場 山口県山口市仁保下郷10317番地
 大阪事業所 大阪府茨木市太田1-1-25

役員

代表取締役会長 あき かわ みのる
 代表取締役社長 あき かわ ただし
 取締役 か 川 い 正
 取締役 申 斐 とし 光
 取締役 田 村 利 次 郎
 社外取締役 内 田 やす 恭 彦
 常勤監査役 とく みつ たか 隆 司
 社外監査役 え 江 とう 藤 たつ お 夫
 社外監査役 宇 佐 さ 美 理 世